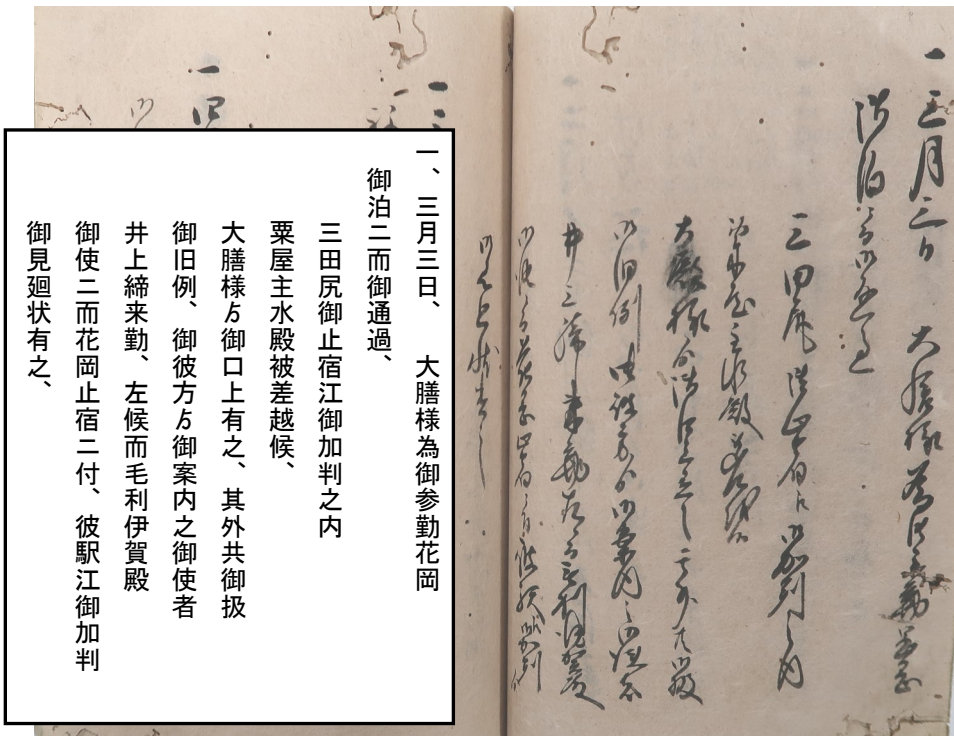


文書館資料で
旅する山口県

防長紀行

＊20

移動 ③



一、三月三日、大膳様為御参勤花岡御泊二而御通過、
三田尻御止宿江御加判之内
粟屋主水殿被差越候、
大膳様方御口上有之、其外共御扱
御旧例、御彼方御案内之御使者
井上締来勤、左候而毛利伊賀殿
御使二而花岡止宿二付、彼駅江御加判
御見廻状有之、

御通過録（徳山毛利家文庫 寺社町方22）

徳山を行き交う人々と徳山藩(1)

《徳山藩領と山陽道》

江戸時代、萩藩の支藩として約4万石を領した徳山藩。その領内には、陸路の大動脈である山陽道が東西に貫いています。その街道には、藩主居館のあった徳山をはじめ、福川(以上、現周南市)、富海(現防府市)などには宿場があり、人々はしばしの休憩をとったり、宿を求めたりしたのです。

そうした人々の中には、九州の諸大名や、長崎奉行などの幕府役人(幕吏)なども含まれます。ここでは、それらの人々と、それを送り、迎える徳山藩の様相を紹介します。

《文化2年の例》

ここでは、文化2年(1805)の例を見えます。

徳山毛利家文庫「御通過録」(右コラム参照)によれば、14の事例が記録されています。その事例は裏面の表に一覧化しています。No.1の熊本藩主、No.5の福岡藩主、No.9の鹿児島藩主といった、九州屈

指の大大名が、江戸へ向かう参勤、あるいは国元へ下る下向の途次に、徳山藩領で休泊している様子が窺えます。No.4は萩9代藩主毛利斉房です。彼は参勤のため、3月3日朝に三田尻(現防府市)を出立し花岡(現下松市)へ向かう途中、徳山藩領を通過したのです。このほか、No.3は肥前国平戸(現長崎県)藩主の嫡子、No.5は肥前国佐賀(現佐賀県)藩主の嫡子、No.6は肥前国島原(現長崎県)藩主、No.10は肥前国唐津(現佐賀県)藩主、No.12は豊前國中津(現大分県)藩主といった、九州の小・中規模大名の名が見えます。

これに加えて、目付である遠山金四郎(No.2・7)、や長崎奉行(No.13・14)といった、幕府の役人たちが徳山藩領を通過しているようです。彼らは、用務により江戸から長崎へ向かったり、奉行として任地に赴いたりしたのです。ここで出てくる「遠山金四郎」は、有名な人物の実父です。

これらの人々に、徳山藩はどのような対応をしたのか見ていくことにしましょう。



「御通過録」
(徳山毛利家文庫 寺社町方22~24)

徳山毛利家文庫「寺社町方」に含まれる「御通過録」は、山陽道を往来する大名や幕府役人に対して、徳山藩がどのような対応をしたかを記した記録です。上図左上から時計回りに、寛政6年(1794)~文政4年(1821)、文政5年~嘉永6年(1853)、嘉永7年~文久3年(1863)の3冊が伝存します。

例えば、No.9の薩摩藩9代藩主島津齊宣(なりのぶ)は、4月25日、領国薩摩国(現鹿児島県)へ向かう途中、福川町に宿泊するため、徳山藩領を通過しています(詳細はシートNo.21)。

この時徳山藩では、町奉行の岡部伊右衛門を派遣すると共に、「火廻り役」(火事をはじめとする宿所の警衛を行う役人)を福川町に送り、安心して宿泊できるよう手配しています。

文化2年の例において、このような使者が派遣された事例は、No.9のほか、No.1・2、No.4～No.10、No.13・14です。最も厚礼なのはやはり本家である萩藩主に対するものです。毛利齊房は徳山藩領には宿泊し

ないにもかかわらず、彼に対しては、前日の宿泊地である三田尻へ徳山藩加判衆のひとりである栗屋主水が出向いたのに加えて、次の宿泊地である花岡に、齊房に随行していた毛利伊賀に対して、徳山藩加判衆から見舞いの書状が送られています(表面参照)。

また、特徴的なのは、No.2・7・8・13・14のような、幕府役人(目付や長崎奉行)への対応です。大名とは異なり、使者が進物(蕨粉)を携えています。

一方で、No.3、No.11・12は対応がありません。No.12の奥平氏への対応がない理由はわかりませんが、No.3と11は、大名本人ではない(その子息)であるために、薄礼の対応にとどまったのではないかと今のところは推測しています。

【表】「御通過録」文化2年に見える大名・幕府役人

| No. | 月日 | 人物 | 理由 | 行動 | 対応 |
|-----|--------|--------------------|------|-----------------|---|
| 1 | 2. 1 | 細川越中守(熊本藩主) | 参勤 | 前夜福川町泊 | 当町西の下馬所へ町奉行岡部伊右衛門出張 |
| 2 | 2. - | 御目付遠山金四郎(幕吏) | 長崎出役 | 上関着船 | 使者中嶋喜作、蕨粉1捲進物 |
| 3 | 2. 晦 | 松浦壱岐守嫡子肥前守(平戸藩主嫡子) | 参勤 | 花岡泊のため通過 | 対応なし |
| 4 | 3. 3 | 毛利大膳大夫(萩藩主) | 参勤 | 花岡泊のため通過 | 三田尻止宿へ加判栗屋主水派遣 その他旧例通り 御案内使者井上締来勤 |
| 5 | 3. 28 | 松平左衛門佐(佐賀藩嫡子) | 参勤 | 福川町泊 | 当町西の下馬所へ町奉行岡部伊右衛門出張 |
| 6 | 4. 1 | 松平主殿頭(島原藩主) | 下向 | 福川町休み | 対応なし 客屋取次役として町奉行岡部伊右衛門差出 御案内使者渡辺伴大夫来勤 |
| 7 | 4. 6 | 御目付遠山金四郎 | 帰府 | 福川町休み | 福川へ使者羽仁伝蔵派遣(葛粉1捲進上) 御用頼のため町奉行岡部伊右衛門出張 |
| 8 | 4. 7 | 長崎奉行成瀬因幡守(幕吏) | 帰府 | 福川町休み | 福川へ使者栗屋勇派遣(蕨粉1捲進上) 対応を前例とおり |
| 9 | 4. 25 | 松平薩摩守(薩摩藩主) | 下向 | 福川町泊の | 福川へ町奉行岡部伊右衛門派遣 その他火廻り役など派遣 |
| 10 | 5. 12 | 水野左近将監(唐津藩主) | 参勤 | 福川町泊 | 当町西の下馬所へ町奉行岡部伊右衛門出張 |
| 11 | 5. 15 | 細川越中守二男長岡職五郎 | 御下 | 福川町泊 | 御扱向一切なし |
| 12 | 閏8・17 | 奥平大膳大夫(中津藩主) | 下向 | 花岡泊、17日富海休のため通過 | 御扱向一切なし |
| 13 | 9. 25 | 長崎奉行成瀬因幡守(幕吏) | 長崎出役 | 福川休み | 福川へ使者井上彦太郎派遣(蕨粉1捲進上) 御先取合等諸事旧例 |
| 14 | 10. 20 | 長崎奉行肥田豊後守(幕吏) | 帰府 | 福川町休み | 福川へ使者飯田代次郎(蕨粉1捲進上) 御先見合等諸事旧例 |